

PREVENTION No.348

2022年12月15日開催

Alcohol's harm to others(飲酒による他者への害)

金城 文(鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野)

飲酒は、飲酒者自身に健康や社会面での問題が引き起こされることに加え、飲酒者の子ども、家族、親族、同僚、友人、他人、近隣の住民、コミュニティ、社会といった飲酒者以外にも harm (害) が起こりうる。Alcohol's harm to others (以下、AHTO) は、飲酒者との関係に関わらず、飲酒者から受けたあらゆる害を示す(Room et al., 2010)。Second-hand effects of drinking、Negative externalities、Collateral damage、Harm to others from drinking と表現されている文献もある。AHTOに含まれる内容は、暴言、暴力、メンタルヘルスへの影響、家に友人を呼べないや家事放棄などの家庭環境の変化、家計への影響、交通事故、性的虐待・暴行、胎児への影響、騒音や汚物や恐怖など公共の場での迷惑行為、飲酒者の世話、設備等の損傷、欠勤や生産性の低下、ヘルスサービス利用、警察利用、町の環境悪化など多岐にわたる。

AHTO への関心は、1960～1970 年代に飲酒運転が飲酒者以外に被害をもたらすことが注目されたことに始まり、1980～1990 年代には妊娠中の飲酒が胎児へ影響することが他者への害として認識された。1995 年のアルコールに関するヨーロッパ憲章には「人々が飲酒による事故や暴力、その他の悪影響から守られた家庭生活、地域生活、職場生活を送る権利を有する」と記載されている。2005 年の世界保健機関ヨーロッパ事務局アルコール政策枠組みでは、加盟国はアルコールに関連した害、特に他者の飲酒による害や弱い立場にある者への害、から国民を守る責務があると言及されている。2010 年に採択された「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」では、飲酒が他人や社会的弱者に与える害についての認識を高めること、他者の有害な飲酒の悪影響にさらされている人たちを守ることをアルコール有害使用対策に盛り込むべきであることが示されている。

以後の世界における AHTO に関する研究から、AHTO 経験がうつや不安、mental well-being 低下と関連すること (Ferris et al., 2011)、家族からの AHTO (特に経済的問題や恐怖感) は精神的苦痛が大きいこと (Karriker-Jaffe et al., 2017)、身体的被害に加え、家庭問題、経済的問題、財産の損傷は深刻な AHTO であること (Grittner et al., 2021) が報告されている。また、家族からの AHTO は女性が受けやすく、職場の人や見知らぬ人からの AHTO は男性が受けやすいこと (Laslett et al., 2011; Karriker-Jaffe

& Greenfield., 2014; Nayak et al., 2019; Stanesby et al., 2018)、若者、低学歴、日雇い労働者、家庭内に多量飲酒者がいる者は AHTO を受けやすいこと (Nayak et al., 2019; Stanesby et al., 2018)、習慣的な多量飲酒者、ビンジ飲酒をする者は AHTO を受けやすいこと (Nayak et al., 2019; Sundin et al., 2021)、特に若者は飲酒量が増えるほど AHTO を受けやすくなること (Grittner et al., 2021)、何度も AHTO を受けているのは女性、若者で、本人の飲酒パターンは関係ないこと (Laslett et al., 2011) が報告されている。わが国では、男性 3.2%、女性 3.4% が配偶者やパートナーから、男性 9.0%、女性 7.1% が職場の人やクラスメートから飲酒を強要されたこと (Shimizu et al., 2004)、家庭内で暴力を受けた者のうち、相手が飲酒していたのは男性 4.0%、女性 28.2%、自身が飲酒していたのは男性 17.3%、女性 0.0% (Shimizu et al., 2005) とこれまでに報告されている。

わが国では、包括的な AHTO についての報告がなかったため、2018 年成人の飲酒と生活習慣に関する全国調査 (2018 年 2~3 月に訪問面接調査) を用いて、(1) 生涯で AHTO を受けた成人の割合、(2) AHTO を受けた成人の関連要因、(3) AHTO を受けたことが重大な影響を与えた成人の割合、(4) 受け手に重大な影響を与えた AHTO、を明らかにすることを目的に研究を実施した (Kinjo et al., 2022)。2018 年全国調査は、日本在住の 20 歳以上を対象とし、男性 2121 人、女性 2506 人 (回答率 57.9%) から回答が得られた。対象者の基本属性は、平均年齢：男性 56.3 歳、女性 55.6 歳、過去 12 か月以内の飲酒あり：男性 83.2%、女性 60.1%、アルコール使用障害同定テスト (Alcohol use disorders identification test; AUDIT) 8 点以上：男性 21.4%、女性 4.5% であった。

生涯にいずれかの AHTO を受けた者の割合 (95%信頼区間) は、男性 24.7% (22.8、26.6%)、女性 19.3% (17.7、20.8%) で、他国に比べると低い AHTO 頻度であった。韓国は過去 12 か月の AHTO 頻度が報告されており、諸外国に比べ低い頻度で、日本と韓国で類似の背景が考えられる (Eum and Choi., 2021)。わが国も韓国も ALDH2 遺伝子多型の頻度が高く飲酒できない人が一定割合存在すること、受けた行為を AHTO であると受け止めにくい文化がある可能性が背景として考えられた。飲酒者との関係別、受けた行為別にみると、男女とも、父からの AHTO が最も多かった。これは、男性の飲酒率が日常的な飲酒、ビンジ飲酒ともに高いことが父からの AHTO が多いことと関係していると考えられる。父からの AHTO 経験は、飲酒者や AUDIT8 点以上で多く、ALDH2 遺伝子多型の影響による可能性が考えられる。配偶者からの AHTO は女性に多く、AHTO を受けた本人の飲酒パターンとの関連はみられなかった。職場の人からの AHTO は男性、若者、世帯収入が一定以上の者で多く、AHTO を受けた本人の飲酒パターンとの関連は見られず、わが国の職場での飲み会文化の影響が示唆された。友人や見知らぬ人からの AHTO は飲酒者、AUDIT8 点以上で多かった。アルコールの有害使用を減らすことに加え、職場におけるコミュニケーションとして飲み会以外の方法を提案していくことは、職場での

AHTO 防止につながるであろう。AHTO が生き方や考え方にかなり/重大な影響を与えたと答えた者の人口に占める割合 (95%信頼区間) は、家庭内の AHTO では男性 1.9% (1.3、2.5%)、女性 2.6% (2.0、3.2%)、家庭外の AHTO では男性 1.2% (0.7、1.7%)、女性 1.4% (0.9、1.8%) であった。生き方や考え方にかなり/重大な影響を与えた AHTO は、男性では父・親せき・職場の人の飲酒による暴言・暴力で、女性は父の飲酒による問題行動の後始末や経済的問題、配偶者の飲酒による暴言・暴力や経済的問題、職場の人の飲酒によるセクシャル・ハラスメント、友人の飲酒によってからまれる、であった。これらは、精神的苦痛が大きい、深刻であると報告されている AHTO と類似していた (Karriker-Jaffe et al., 2017 ; Grittner et al., 2021)。女性ではセクシャル・ハラスメントも深刻な影響を与えていることが示された。

AHTO に含まれる内容は多岐に渡る一方、各地域の文化によって harm (害) の内容も様々である。わが国ではどのような内容を AHTO に含め、どのように AHTO をモニタリングしていくのかを今後検討し、AHTO について臨床家や国民に周知していく必要がある。